

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念をもとに事業所の目標や個人の目標を立てている。常に理念の共有に心がけ実践に繋げている。(笑顔・言葉・食・住)	「共に歩む」という法人の理念を実践している。理念を更に掘り下げたコンセプトとして「希望に起きて感謝に眠る一日の幸を応援いたします。」とあり、「笑顔」、「言葉」、「食」、「住まい」の四つが上げられている。新入職員研修でこの理念やコンセプトが周知徹底され、ホームの定例会議やカンファレンス、申し送り時などでも確認し、個別指導も含め意識づけがされている。理念を具体化するために職員も個人目標を半期毎に立て、「誰に」、「何を」、「どのように」するかを明確にしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の折、近隣者と挨拶を交わし、お花・野菜を頂くことがある。3階から届けて下さる方もいる。地区の行事・合同防災訓練・保育園・小学生・ボランティアと積極的に交流を楽しませて頂いている。	複合施設全体として区費も納めており、区の行事案内などのお知らせが配布されてくる。保育園児や小学生との交流も継続されており、肩もみや手遊びなどで楽しい時間となっている。フロアは違うが、入居後に知り合った複合施設内の養護老人ホーム利用者も時おり遊びに訪れている。習字や読み聞かせ、絵手紙、オカリナ演奏、民謡、舞踊などのボランティアも継続的に受け入れおり、新しい関係が築かれている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	個々の相談にアドバイスをさせて頂いたことがある。また、地域の認知症研修の場で事例提供を行い、共に研修を行った。今後地域への貢献が課題である。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の活動報告・事例の報告・利用者様の状況等報告し理解を頂いている。意見・要望を参考にサービスの向上に努めている。	2~3ヶ月に一度開催されている。入居者、家族代表、区長、民生委員、広域連合職員、市職員等が出席し、入居者の状況やホームの活動状況等が報告され、意見や情報交換がされている。家族代表については交替で参加していただいている。メンバーからの意見や要望等は職員全員で検討し運営に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じ、市関係者と連携を取っている。介護相談員が毎月訪問、利用者様との交流やスタッフの相談に応じて下さる。	複合施設全体の運営を市指定管理者として受託しているため、市の担当窓口とは密接な関係をとっている。広域連合の周辺3市1村から入居していることから介護認定更新の際にはそれぞれの市町村から調査員が訪れ家族も交え相談している。市から派遣される介護相談員1名が1ヶ月に一度来訪し、入居者とも話しをしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を実施、「身体拘束をしないケア」の意識を持ち対応している。見守り体制強化、リスクの高い箇所の施錠は行っている。	法人内の職員で構成する委員会の中に「医療安全対策委員会」があり、色々な情報や検討事項が流れてくる。身体拘束についての研修も実施されており身体拘束をしないケアについては十分理解しており、現在、拘束に当たることは全く見られない。外出傾向の見られる方には抑制することなく本人が納得するまで付き添い複合施設周辺を散歩している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待研修実施、ミーティング等で理解を深め、虐待に関する意識を高めケアを行っている。			

グループホーム寿和寮

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業を利用されている方がおり、毎月関係者の訪問がある。権利擁護に関し理解ができてきている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時にわかりやすい言葉で十分に説明し、ご理解頂いている。質問しやすい雰囲気作りに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置、苦情・要望が反映できるよう心がけている。また、ご家族様が来所時要望等ご意見をお聴きしている。	自分の思いを表せる入居者が殆どで、入居者同志の会話も見られる。毎月の定期受診の際には家族に付き添いをお願いしているため、家族への報告や連絡も兼ね意見や要望をお聞きしている。家族等参加の納涼祭などでも、職員と交流する中で要望や意見の聞き取りをしている。意見箱が玄関に備え付けられているが投函は全くなく、「何か不都合なことがあったら連絡を下さい」との家族からの言葉通り、何でも言い合える良好な関係が築かれている。「グループホーム寿和寮通信」もほぼ月に1回のペースで発行されており家族等との共通の話題づくりに役立っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議・ミーティング・カンファレンス・個人面接・等を通じて意見を反映させている。	スタッフ会議が毎月一回、第4月曜日の午後3時から開催されている。研修や法人内各種委員会の報告、行事予定などの内容で、職員の意見や要望等について提案する機会ともなっている。職員の個人目標のふり返りの場として個人面接も半期に1回実施されており、「目標管理シート」とともに法人独自の「接遇100項目自己点検シート」も含め管理者と進捗状況を確認し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個々の努力・実績を把握しねぎらい、各自がやりがいや向上心が持てるよう、また、労働時間、職場環境にも配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修の場、法人以外での研修の場を積極的に活用、職員全員が参加できるよう配慮、資質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定例会・業務部会・グループホーム連絡会等に参加、情報の交換を行いサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活暦・性格・ご希望など情報を頂き、その上でご本人の話を充分傾聴し、信頼関係を築く努力を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っていること・不安・要望等時間をかけてお聴きし、できる限り要望に沿えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の意向に沿い、必要なサービスを見極め、暫定プランを作成同意頂き、統一したケアの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬意を持ち、畑作り・お料理・昔の話等教えて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に支えて頂く部分・施設が支える部分を共有し、共にご本人を支えていく関係を大事にしており、細かに情報をお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時の主治医を継続してお願いしている。知人、訪問看護師の来訪や馴染みの場所への外出を大事にしている。	開設時からの入居者の高齢化にともない入居前からお世話になっている主治医の往診をお願いする機会が多くなり、4名の医師がホームを訪れている。ホームの協力医に一本化せず、昔からの様子を良く知る馴染みの先生に診てもらうことで入居者も安心して癒しともなっている。その他、馴染みの看護師や在宅中に介護を受けたヘルパーの訪問を受ける方や知人の来訪を心待ちにしている方もいる。在宅時の書道の先生にお願いしている習字も継続している。職員との関係も良好でホームの中に「馴染みの関係」ができて上がっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の状態を把握し、お互い助け合い支えられるよう、席の考慮や話の仲介等スタッフがやっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も希望があれば支援・相談をさせて頂きたいと思っている。他施設に移られたご家族の来所あり、支援させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共に過ごす中で、ご本人の思いや希望を言葉のみでなく表情からも受け取り、情報を共有している。日々の変化・気づきを逃さないようにしている。	殆どの入居者が思いや意向を表すことができる。自分で思いを表出できない方については入居時の情報や入居後の日々の状態を把握し、短い言葉や表情から推測し、きめ細かく対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報・ご家族・知人が来訪時お話を伺っている。緊急時は自宅に施設より訪問しお話を聴きしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できることチェック表を記入評価し、少しでも生きがいに繋がる役割が持てるように配慮している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人ご家族の意向に沿い、カンファレンスでの意見を参考にご本人が自分らしく生活が出来るように作成している。	職員は1人~2人の入居者を担当しており、月に1回のカンファレンスの場で進捗状況や気づきを発表している。ホーム独自のアセスメントシートを作成し、センター方式と併用しながら3ヶ月に一度アセスメントしている。きめ細かい検討を重ねており、6ヶ月に1回は計画の見直しをしている。状態が変わった時には随時変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状況変化や気づき、ケアの実践状況を記録し、情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況により通院の送迎・お見舞い付き添い等柔軟な対応を行っている。		

グループホーム寿和寮

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の芸術祭・踊りの発表会・保育園児との交流・ボランティア受け入れ等積極的に行い交流を楽しんでいる。介護相談員の訪問が月1回ある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族、ご本人の希望に沿い、入居前の主治医継続、複数の医療機関をお願いしている。平常はご家族が付き添い、必要時スタッフが対応している。身体機能低下により、往診対応が増えてきている。	入居前からのかかりつけ医を継続しており、半数近くの入居者が医師の往診を受け、ホームには4人の医師が来訪している。家族とともに定期受診のため通院されている方もいる。緊急の場合は職員が付き添いをし家族と医療機関で落ち合っている。家族との連絡は窓口を計画作成担当者に一本化している。入居前からの訪問看護を継続している入居者もいる。入居者の身体機能もおとろえつつあり、きめ細かい対応が必要となってきている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職が配置されており、日々の健康観察を行い看護師と連携し異常の早期発見に繋げている。訪問看護師との連携も図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関へ情報を提供し、ご家族や医療関係者と話し合いを持ち早く退院できるようにしている。御見舞いに行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの経験は無いが、ご本人・ご家族の意向に沿い、安心して最期が送れるようターミナルの研修を実施した。	法人としての「重度化及び終末期に向けた指針」がある。入居時に本人や家族にホームとして対応できる能力について話し、「看取り介護についての同意書」を交わしている。まだ看取りの経験はないが、研修も行なわれおり、要望があれば対応できる体制はできている。今後対応をしなければならない事態になった場合には家族や医師との連携を密にしその都度話し合っただけで自然な形で完結したいとの意向がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	身体急変時の対応について研修を受け、急変搬送マニュアルを掲示してある。常にシミュレーションし慌てないようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回併設施設と合同防災訓練実施、独自の訓練(伝達・ミニ訓練)・災害時の食料、飲料水を備蓄している。また、運営推進会議を通して地域に協力依頼をしている。昨年スプリンクラー設置した。	複合施設全体での防災訓練を年2回、消防署の指導の下実施している。ミニ訓練として月1回ホーム独自に伝達訓練や台所からの出火を想定した入居者参加の避難訓練を実施している。複合施設の非常時には地元地区との申し合わせで応援をいただくことになっており、逆に地区の方が一の際には事業所を「避難場所」として提供するよう共助の関係が築かれている。スプリンクラーは本年3月に設置済みで、食料品等についても備蓄されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人を尊重しプライバシーに配慮した対応を行っている。接遇チェック表を記入(3ヶ月毎)事故を振り返っている。守秘義務を徹底し個人情報漏らさないようにしている。	入居者個々の名前呼び方などにも配慮がされ、入居者を人生の先輩として敬意をもって接している。個人情報の保護も含めた研修が実施されており、3ヶ月に一度、接遇や人権意識についての自己チェックのための「接遇100項目自己点検シート」で職員が自己採点し管理者あて提出している。守秘義務や個人情報の保護についても職員が入職時に誓約書を提出している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができる穏やかな雰囲気を大事にし、一人ひとりに合う言葉かけや、表情から思いを汲み取り、ご本人の自己決定を待つようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大事にしている。日課(入浴・食事・お茶の時間・行事)等大きな流れはほぼ決まっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時にはおしゃれを楽しむようにしている。本人の好みでカット・美容院へ行かれる方もいる。その日の気分化粧を楽しむ方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望に沿う献立を考え、盛り付け、味付け等工夫、一緒に食事をしBGMや会話、楽しい雰囲気食事でできるよう配慮している。餃子・おはぎ・お寿司・干し柿作り・芋ぼし・漬物他一緒に作っている。	殆どの入居者が自立している。食形態もキザミ食とお粥の方が若干名いるが他の入居者は常食である。食材は週2回注文しており、職員の家からの野菜の差し入れもあるので季節の野菜には不自由はしないという。メニューは職員が考えており、調理も巧みで食欲をそそるような彩りであった。入居者も餃子パーティーで下ごしらえをしたり、できる範囲で手伝っている。この秋はサンマパーティーや焼き芋、「干し柿」や「干しレモ」づくりなどを全員で楽しんだ。入居者と職員が同じテーブルで食事をとっており、和やかな光景であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の状態に合わせ栄養バランスを考え、過不足ならないよう食事・水分量観察、体重の増減・アルブミン値に注意をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、毎食後個別に口腔ケアを実施している。義歯の洗浄行い口腔内清潔に努めている。		

グループホーム寿和寮

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、尿意を大事にしプライドを傷つけない本人の意思を尊重した対応にて介入、布パンツ継続支援に努めている。	昨年までは職員の努力により殆どの入居者が布パンツであったが、半数弱の方がリハビリへと移行している。殆どの方が自立しているが一部介助が必要な方が若干名いる。本人が普通に尿意を訴えるまでは待つ姿勢を保っている。夜間については安眠することを優先しており、時間で起こすことはあまりない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫・運動等予防を心がけている。排便チェック行い内服の必要な方は医師、看護師と連携を取っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週4日を入浴日とし、体調、希望等考慮、ゆっくりと入浴できるよう配慮している。入浴剤を工夫し、くつろいだ気分で楽しく入浴頂けるようにしている。	入浴日は月・火・木・金で少なくとも週2回は入浴しており、入浴の順番を公平にするためローテーションを組んでいる。入浴は午前中の時間帯が多いが、時間をかけゆっくり入る方が多い。浴室・脱衣場は十分な広さがあり、ゆったりと入れる空間が確保されている。浴槽が広く深いので、入居者の状態に合わせて二人介助をするなど工夫している。リンゴを浮かべたり、乾燥した大根の葉を入れるなど気分を変えて楽しむこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりが自由に、好きな場所で休息が取れるよう、落ち着いた和やかな空間を整えるよう配慮している。利用者様はゆっくり過ごされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診・往診時の記録記入、情報の共有に努め、用法・量・目的・副作用についてはファイルし、声だし・2重チェック・飲み込み確認にて内服支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみの多い、張り合いの持てる日々が送れるよう、生活暦を大事にし、趣味、生きがいに繋がる役割分担等環境を整えしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に沿いできる限り外出の機会を作っている。身体的理由により外出を希望される利用者が減少傾向にある。ご家族の協力により毎月外食を楽しまれる方もいる。	天気の良い日にはホーム周辺を散歩しており、雨天の日には一周すると400mにもなる複合施設3階の廊下を歩いている。また市主催の「ふれあいフェスティバル」や「どこいしょ広場」などを見に出かけている。ピクニック気分で八ヶ岳農場へおむすび持参で出かけた。併設の養護老人ホームからお誘いがかかりバス旅行に加わる入居者もいる。	

グループホーム寿和寮

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族了解のもと、施設で小額を預かっている。外出時、訪問販売時本人が購入されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により家族と直接電話でお話されている。以前、絵手紙を出される利用者がいたが、現在はいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間にお花・観葉植物を置き、七夕・正月お雛様等季節感が味わえる、居心地よい落ち着いた雰囲気が保てるよう工夫している。	温暖化の影響が複合施設の中庭にはまだ小さな赤色の朝顔が咲いており大きな窓から望むことができた。玄関を入ると食堂のテーブルが窓際に並び、周囲の壁には、入居者全員の習字や絵手紙、塗り絵などが飾られている。居室に面して奥中央にはソファコーナーがありテレビも設置され入居者の憩いの場となっている。この場所でホワイトボードを使ったりして「脳トレ」が行なわれている。冬対策として床暖が設置されており居心地の良い環境が整備されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・戸外にソファ・椅子を置き、新聞や雑誌等いつでも手に取れるよう配慮、大勢や一人でもくつろいで頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時使用していた馴染みの椅子・机・テレビ・ぬいぐるみ・信心の社等置かれている居室、何も置いてない居室と本人の気持ちを大事にした環境作りに配慮している。	居室には洗面台と二つの収納用ロッカーが設置されているので各居室とも整理整頓され清潔な感じを受けた。テレビやベッド、趣味の楽器や文庫本などが棚や机の上に置かれ、各入居者ごとに暮らしやすい居室づくりがされている。各居室の入り口には入居者に合わせた目印があり、自分の居室がすぐ判るように工夫されている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室がわかりやすいよう表示してある。安心して自由に活動でき混乱しないよう環境を整えている。		